

大学出版

大学と社会を結ぶ 知のネットワーク

*特集

コロナ禍のなかで知を届ける

—— 未曾有の事態に、私達はどうか動いたか？

川崎安子 2

眠らない大学図書館

—— 図書館の門が閉ざされた日

岡部晋典 5

参考文献に図書館の本は

利用可能なのですか？

—— コロナ禍におけるある授業風景から

鈴木クニエ 8

「この機に乗じて」みましょうか

岡田林太郎 10

〈ひとり出版社〉とコロナ禍

仁坂元子 12

コロナ禍の営業月報

橋本幸博 14

キャンパスを知らない学生たちへ

武田博輝 17

灯りをともしつづけて

上村和馬 20

〈普通の人びと〉に寄り添う言葉を

川端 博 22

「問い」を深めながら

丸山俊紀 24

コロナ禍のなかで本を届けるために

大学出版部ニュース 26

No.125

2021.1

冬



一般社団法人
大学出版部協会

大学出版部協会 新刊ご案内

ブックレット第4弾

対立を乗り越える 心の実践

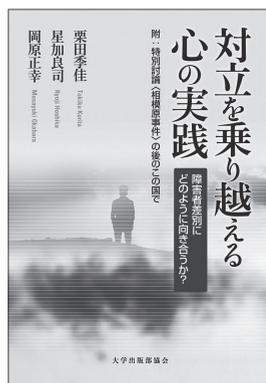
障害者差別にどのように向き合うか？

栗田季佳・星加良司・岡原正幸

大勢の障害者の命が奪われた〈相模原事件〉を起す影は、私たちの内にある。制度や「ねばならない」的教導では、差別はなくなる。「潜在化する偏見」を炙りだし、その原因となる心のメカニズムと社会的背景にまで遡って考察することで、差別解消への糸口を考える。

[発行：大学出版部協会／発売：東京大学出版会]

ISBN978-4-13-003153-0 2017年2月刊行
A5判／88頁／本体1,000円＋税



主要 目次

- 第1章 見えない偏見
障害者を取り巻く問題に現れる心の動き (栗田季佳)
- 第2章 バリアフリーという挑戦
「社会を変える」ことは可能か (星加良司)
- 第3章 生の問題として〈対立を乗り越える〉を考える (岡原正幸)
- 第4章 討論
対立を乗り越える学問の挑戦 (栗田季佳・星加良司・岡原正幸)
- 第5章 特別討論〈相模原事件〉の後のこの国で
有事モード下の差別と偏見

特集

コロナ禍のなかで知を届ける

——未曾有の事態に、私達はどう動いたか？

まだ私達はこの状況をきちんと言葉にできていません。渦中、怒りや矛盾が飛び交うなか、いまは知り、考えることが灯りとなる。そう信じてそれぞれが揺れながらも媒介者としての営みをつづけています。本特集は、灯明を次へつなぐ大学・図書館・書店・出版社から、何ができなかつたのか、現時点での一〇の報告です。

特集*コロナ禍のなかで知を届ける——未曾有の事態に、私達はどう動いたか？

眠らない大学図書館——図書館の門が閉ざされた日

川崎安子

(武庫川女子大学附属図書館 図書課長)

転禍為福

図書館の現場が対人サービス業であることは十分に自覚している。ただ、コロナ禍のため一定の制限を設けながら大学図書館を運営することが、こんなにも感情労働を伴う仕事であったかと辟易するとともに、こんなにも図書館を・情報を・活字を・求める人々がいるのかと、図書館の使命を改めて認識した春夏期だった。備えあれば憂いなしと言うが、これまでに準備してきた諸々の取り組みが見事に結実した半年間でもあり、本学にとっては禍を転じて福と為す契機になったかもしれない。

不穏な空気が漂い始めた二・三月は、空調機器入替工事で中央図書館を全面休館にしていたので、多くの利用者は事前に必要な資料を借り出し、手元に置いていたことが幸いだった。四月には開館する予定だったため、感染症対策

を徹底すべく、学内の施設設備課にアクリルガードの設置を依頼し、消毒用アルコールの手配やソーシャルディスタンスのサイン作成など、早い段階で手を打てた方だと思う。そして四月六日まで、わずか五日間の開館の後、緊急事態宣言により長期休館へと突入する。

滅私奉公

六月一日に限定開館で再開するまでの約二か月間は地獄のような忙しさだった。世間では在宅勤務や時短勤務など新しいワークスタイルが主流となっていたようだが、図書館の仕事は現場に赴かないと何もできない。カレンダー通り、一日も休むことなく出勤した。ただ、この点に関しては見解の相違があるようで、ある医学系研究所の図書室に勤務する方の言によると「司書の仕事に関しては、その半分以上をオンラインで済ませられる。緊急事態宣言中に毎

日出勤していたのは主に管理職で、その人たちは在宅ワークでも仕事が過不足なく回ることに気が付いていない老害だ」と一刀両断されていた。思わず館員たちに「私は老害か？」と尋ねてまわったが、皆一様に「在宅勤務なんて絶対無理」と答えてくれたので、同じ図書館でも館種やネットワーク環境によって異なるのだと痛感する。また、本学の図書館は、司書課程の運営や教務事務を主管する部署でもあり、いわゆる図書館の伝統的業務以外の仕事が多量にあった。特に遠隔授業を実施するための準備に忙殺されたことも、出勤せざるを得なかった原因の一つだろう。授業目的の公衆送信に伴う教職員からの著作権許諾相談が急増したのもこの頃だ。

そして、有料データベースのリモートアクセスサービスを拡大した。本学ではVPN接続ができないため、在宅で利用が可能なデータベースが限られている。各提供元のご厚意により、一時的とはいえ学外からもアクセスできる環境を整えることができたのは有難かった。

永劫回帰

五月のゴールデンウィーク明けから前期の授業がスタートした。すべて遠隔授業である。図書館には館内で利用してもらうための貸出用ノートパソコン60台を備えていたが、遠隔授業で必要なカメラ付きのパソコンを持たない教員に貸し出すため、すべてを情報システム課に供出した。

さながら戦時中のようなだ。

とにかく「図書館から感染者を出さない」を第一に、利用制限を設けながら利用者に必要な資料・情報が行き届くよう努めた。前期は電話受付による事前予約制・指定席制、一部郵送で対応し、七月末時点で「クイック利用」が六三五人、「滞在利用」が二八二七人の利用があった。このクイック利用とは、事前に図書を予約してもらい、指定された日時にカウンターですぐに渡せるようにしたサービスである。韓国の公共図書館がドライブスルー方式で資料を貸し出しているニュースを見て参考にさせてもらった。滞在用で書架から取り出した本はそのまま戻さず所定の場所に置いてもらい、消毒後に配架するようにした。使用した閲覧席は利用を終えた後に「この座席を利用しました」のサインを置いてもらい、消毒作業を行った。後期は図書館のホームページからウェブ予約ができるようにし、中央図書館の開館時間は一〇～二〇時に拡大した。利用者からは徹底した感染症対策で安心して図書館を利用できる、と好評だ。

ただし、利用を制限したサービスがある。本学の特長であったラーニング・コモンズやシアタールームの使用は禁止、ライブラリー・カフェは休業、グループワークも飲食も断り、個人利用に限定した。あれほど賑やかだった館内は静謐な空間となり、象牙の塔の頃に戻ったようだ。いつ再開できるのか、見当がつかない。

奮励努力

他大学では、図書の郵送貸出に注力されている様子をよく耳にしたが、前期だけで六万件を超える貸出がある本学では、積極的広報を躊躇してしまった。もちろん要請があれば貸出・複写とも郵送に応じたが、それならば、こんな時こそ電子書籍やオンラインサービスの出番だと、大きく舵を切ることにした。

リリースしてから丸三年を迎える「M W U 電子図書館」がある。小説、文庫、新書、就活対策本などを中心に約八五〇〇タイトル、独自コンテンツとして、リポジトリで公開できない本学の修士論文や卒業論文、全国約一二〇〇自治体の教員採用試験の過去問題集などを搭載している。学術書は、シラバスに掲載されている教科書・参考書のうち、入手可能な電子版をすべて購入し、OPACからダウンロードできるようにした。一年生の必修科目「初期演習」で担当している四コマ（「図書館の活用方法」「文献と情報活用の倫理」「図書館を活用した情報収集」「アカデミック・ライティングの基礎」）は、すべてオンデマンド教材を作成し、遠隔授業に対応した。定期的に開催している「情報検索プラザ」は対面で実施できないため、二五種のパスファインダーを図書館のホームページに掲載し、新たにオンデマンド教材「あなたの卒論応援します」など三種を制作、YouTubeに公開した。期せずしてユーチューバーデビュー

である。広報室の協力を得て、入学してからまだ一度も図書館に足を運んでいない新入生に向け、図書館の施設紹介の動画も作製・公開してもらうことができた。これらの取り組みが奏功し、電子書籍は前期だけで昨年度の利用実績とほぼ同数となる約一四万件の貸出があった。

一言芳恩

今なお限定開館を継続中だが、事前予約制が浸透していなかった最初期は、自分は予約なしでも利用できると思いい込んでいる人や、自分が使いたいときに使えない苛立ちを剥き出しの感情のままぶつけてくる人から罵詈雑言を浴びることが度々あった。辛抱強く丁寧に対応した司書スタッフたちを心から誇りに思う。司書課程の授業では、まさに現場で起きているこれらのトラブルを共有し、司書としてどう対処すればよいかを学生たちと縷々議論した。疲労がピークに達したある日、多事多端な毎日が面倒くさくなり、「あらゆる制限を外して通常利用に戻してしまおうか？」と問いかけたことがある。すると、クラスの大半の学生から「せっかくこれまできちんと対応してきたのに、自暴自棄になってはいけません。先生、頑張りましょう！」と励まされたのだ。弱気になった自分を恥じだし、学生たちの激励に思わず涙が出た。おかげで今では方々から労いの言葉を頂戴している。コロナ禍で人に傷つき、人に癒される日々である。

特集*コロナ禍のなかで知を届ける——未曾有の事態に、私達はどうか動いたか？

「参考文献に図書館の本は利用可能なのですか？」

——コロナ禍におけるある授業風景から

岡部晋典（愛知淑徳大学人間情報学部専任講師）

はじめに

コロナ禍における大学教育についてのエッセイを、という依頼である。そこで本稿では大学の教育・研究・校務のうち教育活動に重点をあてて述べる。しかし一言で遠隔授業といってもその内実は様々である。例えば同期性を担保し、遠隔会議システムを活用したリアルタイム講義と、資料を提示し学生にダウンロードさせるオンデマンド方式とに大きく分けられる。更にオンデマンド方式でも、動画を導入するもの、音声のみを導入するもの、テキストベースでの資料提示など、その形式は様々である。二〇二〇年秋の執筆時現在では遠隔と対面を併用したハイブリッド形式が文科省からは推奨されている。このように様々な授業形態があり、大学によっても状況が様々であった以上、本稿もあくまでも同時代的なスナップショットに過ぎないこ

とを予めお断りしておく。なお、筆者の専門は図書館情報学。非常勤講師を含め教歴は約一〇年。任期付き職を渡り歩く、今のご時世どこにでもいる一教員である。

遠隔授業のはじまり

遠隔授業と方針が決定されてから即座に行ったことは一にも二にも情報収集である。これは研究者仲間や同僚との相談、SNSの活用があげられる。誰もが経験したことのない状況下では、授業の実践報告は当然ながら存在しない（もちろん、過去のファカルティ・デベロップメント活動などで紹介された知見は活用できるものもあった）。特にFacebookの大学教員を中心とするグループでの情報交換は極めて盛んであった。執筆時現在、約二・一万人から構成される巨大なものへと成長しているグループもある。前半のSNSは文字通りの阿鼻叫喚であった。Good事例

の紹介もあればバッドノウハウの共有、愚痴、その他諸々が飛び交っていた。

結局、筆者が採用した講義方式は原則として「オンデマンド方式」「テキストベース」「アンケートフォームを用いた毎回のレポートタスク」「コメントシートに対するコメント返し」である。もちろん必要に応じて、動画・音声なども提供した。演習では何らかの形でリアルタイム性を担保するため、Slack（ビジネス用チャットツール）やZoom、Teams など様々なサービスを用い試行することとした。なお、現在は対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド形式での演習も行っている。他大学では動画作成を必須とされるなど、形態は様々だったようだ。「動画を作った経験なんてない」という悲鳴はよく聞くものであった。筆者自身、アンケートやレポート回収など、自動化可能な箇所は極力自動化するなどの労力削減に努めたものの、それでも通常の授業準備とは比べものにならないコストがかかったことは明記しておきたい。いかに授業中の口頭での補足が役立っているかを痛感する毎日であった。

学生の反応はどうだったか

教員が混乱していたように学生も同じく混乱していたようである。しかし授業開始後数週間を経ると、混乱しつつも教員・学生ともに遠隔体制に順応していった。統計等については既に大規模調査がなされつつあるし、各大学でも

実施されていた。ただし内部向けの調査を公表するわけにもいかないため、筆者が講義内にて独自に実施したアンケート等をここでは紹介する。これはあくまでも小さな一例に過ぎず、今後、教育社会学者などの手によって、大規模な調査結果が公表されていくだろう。

まず、平均値を見る限り遠隔講義自体の受け止められ方は、通常の対面授業よりおおむね好評であった。ただしヒストグラムを描いたところ、どの授業でも「遠隔が良い」と回答する学生、「対面が良い」と回答する学生がそれぞれ集中していた。いわばフタコブラクダ状の図が得られた。すなわち学生の受け止め方は二極化しているといえる。平均値には罫が潜むとよく言われるがその通りである。課題等に関して学生は従来よりも非常によく取り組むようになった。あくまでも主観であるが、例年よりもレポートの出来は良好であった印象である。「一単位は、教室等での授業時間と準備学習や復習の時間をあわせて標準四五時間の学修を要する」という単位の実質化の要請には合致しているようにも見えるが、当然のように課題の多さに苦心惨憺となる学生も多発したようである。

さて、大学の〈場〉としての風景が一変したことなどについては、既に他の箇所でも繰り返し指摘されているのここでは触れない。コロナ禍における遠隔授業化にまつわる苦勞については多くの教員が様々に語っているし、筆者自身も多く語りたところである。ただしそれは割愛し、

いくつかの現状報告と希望（展望）を述べていきたい。

リアルタイム授業においては同期性は担保されていたものの、オンデマンド授業は同期性・場所性の概念を解体させた。これは利点もあれば欠点もあった。身体性を含みつつ場を同じくして学ぶという体験が失われたことは容易に指摘しうるが、それでも利点は存在する。笑い話であるとは断っておくが、三、四年生向け朝限の講義において、例年と比べ受講者数が一〇倍近くに膨れあがった。「オンデマンドは朝一限に合うよう起床せずに済むのでありがたい」とは学生の弁である。また、ハイブリッド授業では学生の主体的な判断によって「今日はオンライン」「今日は対面で」といった選択肢を提供できたことは良かったのかもしれない。

〈大学出版〉に引きつけると

本媒体を鑑みると、やはり図書館（とくに大学図書館）のトピックを避けることはできないだろう。各大学図書館もこの困難のなか、様々な限りのサービスを展開していた。例えば郵送での図書を送付する、オンラインでレファレンスを受け付けるなどがそれにあたる。また、大学への入構が許可されるに伴い、滞在時間を限定するなど感染対策に十分留意しながら開館するなど、可能な限り情報を利用者に繋げていこうと苦闘した大学図書館員は多くいたことを記しておく。

ただ一方で、図書館にアクセスできなかった学生が多発したこと、特に筆者は、初年次における学生の情報行動が変化した可能性に注目しておきたい。

ある日、恒例の授業のコメント返しを行っていたところ「参考文献に図書館の本を用いても良いのでしょうか」という一文があった。何を愚かな質問を、と思われる向きもおられるかもしれない。しかし筆者は愚かな、の一言で済ませてはならない何かがここには含まれていると考える。

これまで大学新入生に対して図書館の利用ガイダンスなどが広く行われてきた。漱石の三四郎を引くまでもなく、大学の新入生が大学図書館の雰囲気や圧倒されるというのは、よくある通過儀礼のひとつであろう。しかし今年はその機会が決定的に欠落してしまった。現状、学生の彼ら・彼女らが求める情報源はオンラインである。オープンアクセスの論文であればむしろ御の字。ペイウォールの先に情報源があることも知らない。書架をブラウジングした結果のセッションディベティなどは到底、期待できそうもない。

コロナ禍がいつまで続くのかは全くわからない。しかし「図書館の本を参考にしてよいか」という素朴な問い自体がはらむ何かは、何か懸念すべき兆候を指し示しているのかもしれない。

特集*コロナ禍のなかで知を届ける——未曾有の事態に、私達はどうか動いたか？

「この機に乗じて」みましようか

鈴木クニエ（勲章書房 編集部）

「一斉休校」

もう二度と聞きたくない言葉です。

社内のいわゆる子育て世代は全員編集部員。突然編集部
の半分が出社できなくなろうとは！ 続いての緊急事態宣
言に、テレワーク推奨。小回りもきかないし機動力もない、
中途半端なサイズで、しかも創業七〇年を超え歴史だけは
そこそこある、紙に埋もれた出版社の二〇二〇年三月四月
は、天地だけでなく左右もひっくり返っていました。同じ
ように大学も驚天動地だったでしょう。

あわててオンライン化

業務を早急にオンラインでこなせるようにすべく、無料
サービスを片っ端から試して導入しました。Slack、
ドロップボックス、Gドライブ、Zoom、Meet、あ
となんだっけ。さすがにZoomはすぐ契約もしました。

デジタル化しづらいゲラ以外、各種部内業務ごとにオン
ラインでの作業フローを考え、接続や共有をひたすらテス
トし、一斉休校の影響を受けなかった出社可能組の多大な
申し訳なく思いながら、どうにかこうにか社内の業務をと
りあえず回す方途を探る日々でした。減入る気持ちを振り
切るための「この機に乗じて」を合い言葉に、このプロセ
スに巻き込まれてくれた同僚たちには感謝しかありません。
そうこうしているうちに、ほうぼうの著者から教科書入
手困難の悲鳴がきました。一部の編集部員は例年には
ない注文の取りまとめをし、営業部もさまざま個別対応
で協力しました。つくづくと業務のデジタル化・オンライ
ン化と電子書籍の必要性を感じた期間でした。

紙の重要性、電子の有用性

ではありますが、オンライン授業が始まると「紙の教科書」の重要性も再確認しました。分野によるかもしれないが、オンラインでであろうが、ストーリーミングであろうが、学生の乏しいデジタル環境では、教科書は手許でしっかりと開けないとつらいという声を複数から聞きます。

ただし「参考書」になると紙書籍が不利になった印象です。図書館へのアクセスがしづらく、電子書籍での提供が求められる。結局は、内容に応じた強弱はありつつも、学術書であろうが電子も紙も両方必要という、当たり前の現実を再認識しています。

機関図書館向けの電子書籍配信は二〇一四年から始めていたものの、個人向けは始まったばかり。弊社の取り組みがはたして「間に合った」といえるのかどうかは、まだわかりません。準備万端ではまったくありませんでした。

新しいツールに古いままの頭はちょっと……

一連のオンライン化対応で、自分たちの弱点も改めて突

きつけられました。いま怖いのは三年後と言いついていま

す。これまでと同じようにしては企画の端緒をつかめません。とはいえ、オンライン強化で意外なコミュニケーション上のメリットが見つかったり、同僚たちの隠れた能力も発見したり。今後につながる希望の種です。

何より、著者であれ編集者であれ何事にも軽やかな三〇代、戸惑いながらも慣れていく四〇代。さつさとオンラインイベントを自力で企画したり、読書会もZoomとSlackを使いこなしたりして、これまで障害にながちだった時間と距離を乗り越えていきます。

一方で「やっぱり直で」と言い続ける五〇代六〇代の情けなさ。すっかり腰が重くなっている我が身を突きつけられました。ヨロヨロでもついていくしかありません。ハードルは超えなくていい。下をくぐったり、横をすり抜けたりすればいいと言いつつ聞かせながら、なんでもコロナのせいにしてお話ししやすい、「この機に乗じる」いい機会。せめてそう思っ使わせてもらいます。

●ノーベル賞作家が贈る、今こそ読みたい絵本

迷子の魂

男は働くことをやめ、迷子になった自分の魂をじっと待つことにした……。ノーベル文学賞作家が贈る、大切な魂のものがたり。



Olga Tokarczuk, photo: Dorota Hartwich



Joanna Concejo, photo: private archives

オルガ・トカルチュク文／ヨアンナ・コンセホ絵／小椋彩訳

A4判変型 本体2500円



岩波書店

東京・千代田・一ツ橋
(定価は表示価格＋税)

<http://www.iwanami.co.jp/>

特集*コロナ禍のなかで知を届ける——未曾有の事態に、私達はどう動いたか？

〈ひとり出版社〉とコロナ禍

岡田林太郎 (みずき書林)

二〇一八年の春に独立し、自分だけで出版社を立ち上げた。いわゆる〈ひとり出版社〉である。

またたく間に二年が経ち、立ち上げ時の慌ただしさもやや落ち着いて、三年目は万全の態勢で臨みたいと考えていた矢先に、世界が一変した。多くの書店の休業があり、執筆者である先生方はリモート授業に大わらわだった。「万全の態勢」はあつという間に崩れ去った。なかでも最大の変化は、やはり人と会わなくなったことだった。

誰にも会わない四月

自分ひとりだけだから、やることは毎日たくさんある。とくに、会社を立ち上げ営業体制をととのえながら編集もしていた一年目、初期衝動のままつんのめるように動き回っていた二年目と、すべきことは膨大で、会うべき人は多かった。たとえば銀行、税理士事務所、郵便局、書店、

取次、流通関係の会合、印刷所、研究会、もちろん著者の打ち合わせ、取材……。なんの用事もなく、誰とも会わないで一週間が過ぎることは、創業以来一度もなかった。

二月下旬くらいからその状況がすっかり変わり、誰とも会えない一週間が普通になった。

自宅ですべてのひとり出版社である。同僚と雑談することすらない。会わないとなると、仕事関係の人にはまるで会わなくなる。たとえば二〇一九年の四月には、打ち合わせ一六件、刊行記念イベント三件、受賞式一回、読書会一回があり、連休に入ると友人と旅行に行っている。それが今年の四月は、Zoomの打ち合わせが二件だけだった。いま振り返れば、この頃はかなり暗い気分だった。コロナ禍もさることながら、うんざりさせられるようなニュースも多かった。沈んだ気持ちでポストをのぞくと、安っぽいマスクが入っていてさらに落ち込んだ。

会って話をする

人と会って話をする。

誰とも会わない数カ月の間に、その喜びを再認識した。

我々は出会い、どんな本を作ろうかと話をする。どうやって売ろうかと話をする。書けないといつては話をして、書けたら書けたで話をする。売れないといつては話をして、売れたら売れたで話をする。長い時間をかけ、ときに酒を酌み交わし、膨大な雑談を含めて、我々は話をする。

仕事とは多かれ少なかれそういうものだと思うが、主要商材が「ことば」であるうえに、原則として二度と同じ本を作ることはなく、常に新商品の開発が前提である出版業は、とりわけ「話す」ことで成り立っていると思う。

もちろんリモートでも、話をすることはできる。今回普及したオンラインツールにはメリットも多く、今後も選択肢のひとつとして残り続けるだろう。それによって仕事のやり方が良いほうに変わった点もある。それはコロナ禍が

もたらした、数少ない良い面のひとつかもしれない。僕もオンラインでの打ち合わせや飲み会に慣れていった。最初の混乱が収まり、本も問題なく出せるようになった。しかし、それでもなお。会って話をしてみたい人がいる。

今後、世界がどうなるかはわからない。会えないままに仕事を進めることが常態化するのかもしれない。それはそれでしかたのないことではある。ただやはり、会って、顔を見て、話をした。その気持ちはごく自然な願いとして、なくなることはないだろう。もしかしたら、会うことは危険でレアな贅沢になってしまうのかもしれない。でも、とるに足らない無意味な業務にはならないでほしい。

* * *

先日、ある著者と対面で会った。三月以来、半年ぶりだった。ことさら肩を叩きあったり、感涙にむせんだりしたわけではないが、素直に嬉しかった。「お久しぶりです」とちよつとぎこちなく笑ったそのとき、（ひとり出版社）は全然ひとりじゃないとわかった。

新刊案内

中国の南向政策

〔学習院大学
東洋文化研究叢書〕

中居良文 編著／ブー・ソテイヤック・佐藤考一・
大嶋英一・村主道美・長尾賢・海老根量介 著

A5判 二九〇頁 定価 本体四二〇〇円十税

中国の経済発展は「南」から来た。中国と「南」との関係は、今後の世界との関係を展望する鍵となる。習近平の「一帯一路」は「南」で、そして世界で成功するであろうか。

ホワイトカラー労働組合主義 の日英比較

松尾孝一 著（公共部門を中心に）

定価 本体七八〇〇円十税

社会経済統計研究の成果と展開

岩崎俊夫 著〔論点と関連論文（1955-80年）〕定価 本体四五〇〇円十税

御茶の水書房

〒113-0033 東京都文京区本郷5-30-20
電話03-5684-0751
http://rr2ochanomizushobo.co.jp/

特集*コロナ禍のなかで知を届ける——未曾有の事態に、私達はどう動いたか？

コロナ禍の営業月報

仁坂元子 (北海道大学出版会 営業部)

出版営業四年目。二〇二〇年三月以降、日々の業務を通して印象に残っていることを書き出していく。

三月 北海道で緊急自体宣言が発表される

二〇二〇年二月二十八日(金)、北海道より緊急事態宣言が発表される。不要不急の外出を控えることが強く呼びかけられたことから、このころより五月末ごろまでは書店への営業を極力控えるようにした。

卒業式、入学式、そして来期の授業が通常通り実施されるのか情報が錯綜し始めるなか、小会は受注した通り二〇二〇年前期採用品を各取次・書店に納品する。

四月 新刊・注文品は納品できるのか？

小会の四月新刊は六点。四月七日の緊急事態宣言発令後、首都圏を中心に書店が臨時休業していくなか「新刊・注文

品は果たして納品できるのか」と心配したが、結論を言えば、関係各所の協力を得て、無事に納品することができた。一方、対応できなかったこともある。四月下旬の大型連休前のネット書店への在庫補充だ。連休前ということもあり、品切れ商品を補充したいと関係先に連絡を取ったが、生活必需品の納品・発送を優先するという方針を聞き、在庫補充を断念せざるを得なかった。

五月 採用品が売れる

リアル書店も臨時休業中で、ネット書店でも品切れが生じ始めて以降、採用品銘柄がAmazonのマーケットプレイスを介して異常なペースで売れ出した(小会はマーケットプレイスにも出店している)。前年比七五八%増(二〇二〇年四〜五月)。採用品銘柄が連日売れた。

その一方で、三月に大学生協や書店に納品した採用品は

売れ残って大口返品となるのではないか……という不安がよぎる。しかし、小会に限って言えば、その心配は杞憂に終わる。店頭販売から通販へ対応を切り替えた大学生協や書店のご尽力により、例年以上に採用品が売れたのだ。

六月 緊急事態宣言が解除されて

多くの書店が通常営業に戻ると、見事にAmazonのマーケットプレイスを介した注文も落ち着いた。書店への納品ペースも徐々に戻っている。

* * *

こうやって書き出してみると「できる範囲でベストは尽くした」ような気がする（本稿を読まれて、皆さま、いろいろ思うところはありますが……思ったままでいてください）。もちろん、この間もつとSNSを活用して自社商品を紹介すればよかった等、反省点がないわけではないが、自社だけでできることは案外少ない。コロナ禍にあっても小会は幸運なことに「作って」「納めて」「売る」というサ

イクルが、時折りびつになりながらも循環していた。これも、執筆者、印刷会社、製本会社、取次、書店関係者、運送業者をはじめとする皆さまのおかげです。あらためて御礼申し上げます。

最後に、コロナ禍にあつて出版営業の私が思うこと、それは直販体制の強化である。書籍は書店を通じて購入してほしいという思いは変わらないが、納品先（書店）が閉じてしまうと、在庫を抱える出版社はどうにも立ち行かなくなる。作ったからには売らなければならない！ それゆえ、「保険」という意味でも、自社から直接読者に届けられる販売方法を確保しておくことは重要だと私は思う。

一月一七日、北海道（主として札幌市）の新型コロナウイルス感染者急増にともない、同月二七日まで不要不急の外出と札幌市への往來の自粛が北海道から要請された。書店や出版社にどのような影響があるのか気になるところである。

日本古代都城の形成と王権	重見泰著	11000円
日本中世の政治と制度	元木泰雄編	10000円
中世禅宗史叢説 附 禅籍の口語 略解	西尾賢隆著	10000円
中世醍醐寺の仏法と院家	永村真著	9000円
近世の公家社会と幕府	田中暁龍著	10000円
天皇近臣と近世の朝廷	林大樹著	12000円

近世の遊廓と客	遊女評判記にみる作法と慣習	高木まどか著	9500円
幕末維新の政治過程		三宅紹富著	11000円
日本の近代化と民衆意識の変容	機械工の情念と行動	西成田豊著	9000円
帝国日本と鉄道輸送	朝鮮経済	竹内祐介著	8000円
近現代の皇室観と消費社会		右田裕規著	9000円
戦没者遺骨収集と戦後日本		浜井和史著	9500円

日記と歴史百科が一冊で便利！
歴史手帳 2021年版
1100円

吉川弘文館
〒113-0033・東京文京区本郷7-2-8
電話03-3813-9151 / 価格ほ税別

特集＊コロナ禍のなかで知を届ける——未曾有の事態に、私達はどうか動いたか？

キャンパスを知らない学生たちへ

橋本幸博

(丸善雄松堂株式会社 Research & Innovation 本部営業推進部)

「学習支援」のオンライン化準備

当社では、お客様である大学（以下、大学）から委託を受けて、図書館やラーニングコモンズ等の施設内にスタッフが常駐し、学生の学習相談の対応や、学生向けアカデミックスキルセミナー等（以下、学習支援）を開催、運営、学習支援サービスとして提供している。

未曾有のコロナ禍によって、今年度の初めから大学各施設の利用が禁止になり、当社の学習支援の提供も見合わせとなった。再開の時期も延期が続き、見通しがつかない中で、今できる学生への支援はなにか、巧遅よりも拙速でも早く形にして学生に提供し、都度改善していこうという思いで大学へ学習支援のオンライン化を提案、複数の大学で学習支援のオンライン化を実施することができた。本稿では、学習支援サービス推進担当者の視点から、そこで得た

課題や手応えについて感じたことを述べたいと思う。

準備段階において、現場が苦労したことの一つとして、オンラインツールの契約条件に紐づく制約や、大学固有のシステム関連情報を得られなかったことが挙げられる。これは、照会先となる情報メディアセンター系の部署で、大学の正課（授業）オンライン化の準備に忙殺され、学習支援の取組みについて、後回しとなったという事情もある。

これらは、不足の情報を根気よく大学に照会し、またツールの契約条件の更新を促すことで解決に至った。

また、当社では従前から対面によるアカデミックスキルセミナーは実施していたものの、オンラインで学習効果を出すために、どう改良していくかに苦慮し、社内で議論を重ねてきた。その中で意識した事は、通信環境が理由で教材データが開かないことのストレスが学生の集中力に大きな影響を与えるということである。この点をオンライン学

習の必須事項と捉え、「スマートフォン利用者」「パケット通信量の比較的大きなWEB会議アプリ利用者」の受講者を意識し、教材データ量を軽くした結果、利用者から通信ストレスが減り、集中力が高まったという意見が集まった。

オンライン講座初日の驚きと手応え

とある大学では、昨年度までは他大学から専門の教員をお招きして公開講座形式で学習支援講座を行っていたが、五月中旬からオンラインのライブ形式での提供に変える事とした。現場の人間にとって初めての試みは、常に緊張と不安が付きまとう。初回は、一年生向けの「レポートの書き方講座」であったが、事前接続試験（講師の研究室または当社のスタジオからアクセス）や講義当日のシステムのな補助の段取りなどの協議は十分に行ったものの、とにかく無事に九〇分が終わってほしい、という気持ちで臨んだことを覚えている。

この講座は、大学内での告知方法が昨年度と同じで、告知期間も短かったことから、参加者数については左程期待を持っていなかった。だが、初講座が始まると同時に、WEB会議アプリ上に表示される参加者数のカウンターがみるみる増え、ふたを開けてみれば前年平均を大きく超える七五名という受講となり、オンライン学習について手応えを感じられる印象的な講座であった。

九〇分という講座の中で、アイスブレイクでの講師の呼

びかけ（今朝食べた物はなに）に対して、瞬く間に次から次へとメッセージが集まり、会話が弾んでいる様子を間近に見ることができた。SNS世代の本領発揮、時代も変わったな、という素朴な感想を抱いたことも印象深く記憶している。講義終了後の質疑応答でも、チャットベースで質問が多数送られてきて、講師が一つ一つに回答を返す様子が見られた。日常の発言は控えめだが、問いを持っている学生にとってオンライン講座は、学びのコミュニケーションがとりやすいのでは、というオンライン学習支援の可能性を肌で感じる事ができた。

その後も、「プレゼンテーション講座」「卒論の進め方講座」等の講座を運営しているが、現時点では、大学による違いはあるものの、昨年同期と比べ、概ねオンライン講座の方が学生の参加申し込みが増加傾向にあることが分かった。もともと学習支援講座を受講する学生は少数の自主的な学習意欲がある生徒という傾向があるが、大学によつては、昨年同期比で、三倍から五倍の申し込み数で推移している。

コロナ禍での学生への告知は、重要な課題ではあるものの、現時点で新しい発信手段を講じている訳ではないので、この増加は率直な驚きと共に、手応えも感じている。

参加者が増えた理由は、①特に一年生はキャンパスの空間的な概念がないため、知らない建物・教室に行くという心理的なハードルがないこと、②レポート課題が例年以上

に多く課され、レポートの書き方を知らなくて困っている学生にとつては、レポートの書き方講座等は利用者のニーズに適っていたこと、③自宅からのオンライン授業参加に疲れ、閉塞感、孤立感も覚えている学生に、私たちの講座がなにかしら期待を感じようなものに映ったこと、などではないかと考え、参加者への受講内アンケート等の分析を進めている。

また、講座の内容についても、学生からの評価が高い傾向にあり、特に今回、『オンラインでもためになる講義を受けられると感じた』、『他大学の先生の講義を受けられてとても楽しかった』といった声が聞こえたことは、講座を企画する私たちにとって望外の喜びとなっている。

相談件数も伸びているオンライン学習相談

オンラインによる個別学習相談についても、申し込みが徐々に増えてきており、ニーズの高まりを感じている。早い大学では五月からオンライン学習相談を採用頂き、実施した。これはあらかじめ設定してある相談時間枠に学生が予約申込をして、当日のセッションで学生個々の学習相談を受けるといふものである。オンライン化のための準備として、①オンライン予約申込機能、②WEB会議の招待などの庶務、③学習相談員のオンライン相談に向けた接遇トレーニングなどの対応を行った。

初回こそ相談申込の数が少なかったものの、前述のオン

ライン学習支援講座との連携を進めてからは、徐々に予約数が増え始め、現時点で既に昨年一年間の予約件数を超える大学も始めている。私たちはこの推移を、現キャンパスに來られない不安や授業課題に追われ、切迫感を抱えた学生に対して、学習相談員が、オンライン上という制約を跳ね返し、真摯に寄り添ったセッションを行えている結果である、と自己評価している。

「ハイブリッド」学習支援講座への展望

時間的・空間的制限のないオンラインでの講座や学習相談で、多くの学生の学びに関与できたということは大きな収穫であった。一方で懸念事項は、学習の質の保証と、学習意欲の担保である。学んでいる実感、一緒に学んでいる仲間から得られる「熱量」「緊張感」「一体感」をオンラインで実現することはやはり難しい。学習は一人だけの行為ではないということを考える毎日である。これからはオンラインと対面の「ハイブリッド」学習時代となることは避けられないが、特性を活かした上手な使い分けで「コロナ」での学生の学習効果をどう高められるか。私は、オンラインは個々の知識獲得に、対面は他者と出会い、協働することで学習を深めることに適していると考えている。この特徴を意識しながら学習者目線で両者の接続をはかり、最適な学習支援ができればと、試行錯誤の毎日を送っている。すべては学生が求める学びのためである。

特集*コロナ禍のなかで知を届ける——未曾有の事態に、私達はどう動いたか？

灯りをともしつづけて

武田博輝 (京都大学生協シヨップルネ書籍フロアマネージャー)

学生さんに教科書をどう届けるか(三〜四月)

京大生協シヨップルネは、コロナ感染が拡がりつつある中でも、京都大学は通常の対面授業がされる前提で教科書販売の準備を進めていました。しかし、四月一日になって大学は新入生向けのガイダンス、開講を延期すると発表しました。一部の講義では、実施されるなどの情報が錯綜する中、講義が実施されてもされなくても、3密を避ける販売方法の検討と、学生さんが登校しない場合に、学生さんにどうやって教科書をお届けするかの検討を始めました。

この時点では、まだ感染対策については営業自粛や^{Self}Homeなど接触を避けるため出歩かないことが中心だった頃で、消毒用アルコールの常設や、フェイスシールドの設置など営業を継続するための対策も手探り状態でした。

シヨップルネの四月一日の販売開始から開講までの教科

書利用は一日一〇〇人未満でしたが、本来の開講日であった、四月六日からの一週間は一日二〇〇〜二六〇名ほどでした。それでも、二〇一九年の三割程度の来店状況にとどまっています。そのような状況の中、緊急事態宣言の発令があり、大学は正式に五月七日を開講日とすることを発表します。

教科書の購入動向と商品調達の苦勞

オンライン講義は学部によって少し前後しますが、概ねGW明けからとなりました。そのため、学生さんへは四月の一ヶ月間は「予習」として推薦本を読むなどの指示があったようです。シヨップルネでも来店される学生からの品揃え問合せを受け、その都度、教員へ電話やメールで確認を行い、店舗の教科書Webカタログへも追加掲載を行うようにしました。しかし、受講者数がわからないことも多

く、品切の発生や逆に在庫過多になるなど商品調達が例年以上に難しい状況でした。特にある学部では、通常開講ならあまり利用のない高額書が多く売れるなど、先輩からの情報を得ることが出来ず手探りで教科書を購入しているように思われるケースもありました。

一方で法律書の利用は前年より減少しました。法学部、法科大学院の学生さんは購入の動きが早いため、オンライン講義決定後は一般のネット書店で購入されている可能性も考えられ、次年度への課題となりました。他にも、開講後の指示となるゼミテキストの情報収集に苦労しました。例年であれば開講後売り場にて学生さんから問合せがあった際に、すぐ受講人数等や先生の名などの情報を把握し手配していましたが、今回はそれができず、先生方に直接問合せただけ購入できる環境を整えるようにしました。

教科書宅配サービス開始

京都大学は学内入構全面禁止とはならなかったのですが、他大学の大学生協の状況はより大変だったようです。学生さんの完全入構禁止措置の判断をされた大学もありました。当該の大学生協では、教科書購入方法を事前予約制にし、来店時間を分散させるようにするなど検討・提案されたようですが、そもそも大学内に入ることもできなくなったため対応に四苦八苦されていたと聞いています。

そのような中、いくつかの大学生協が、宅急便の代引の

仕組みを使って教科書をお届けするスキームをつくり、短い準備期間で取り組みを開始しています。京大生協の宅配も、大学開講日の変更とオンライン講義開始の発表と同時に、四月一日から検討をはじめ、八日から受注を開始できるようにしました。一〜二回生の多い吉田南構内にある吉田ショップ、学部上回生の利用が多いショップルネ、医学部のある南部購買の三店舗で受付を開始し、四月一五日から発送を開始しています。結果、吉田ショップ二二一九名、ショップルネ七三七名、南部ショップ四三名と延二九九九名の学生さんに宅配で教科書をお届けすることができました。通常の来店利用も密にならない程度にあつたため、受注がパンクする事もなく進めることが出来ました。

宅配しかお届け手段がなかった大学生協では、四月二週目からの三週間で延一万件の受注があり、対応にかなり苦労されたと聞いています。教科書宅配サービスは、従来の大学生協のリアル販売を前提とした販売形態とは全く異なり、受注の仕組みも持っていない販売方法でした。受注方法から発送までの作業手順の組み立てや配送部材の調達、宅配業者との打合せなど、どの大学生協の担当者も悩みながらなんとか稼働にこぎつけることができました。

大学での学びをサポートすること、学術書を必要とする学生、教員へ提供し続けることが大学生協の書籍部門に携わるものとしての使命だと認識して奔走した上半期でした。

コロナ禍でのショッピング

従来とは違う来店動向も見られましたショッピングブルネの来店者数は通常の新学期と比較して学生さんは減ったものの、逆に一般利用が増えるという現象が起きました。通常、繁忙期を除いた場合のショッピングブルネの一日の来店者数は五〇〇名前後ですが、学生さんの来店が減っても三〇五月GW前後までの全来店者数大きく変わりませんでした。

組合員に加入されている地域の方々の利用もあったという背景がありました。近郊の大型書店が軒並み営業を自粛したこと、GW巣ごもり需要も影響して三月中旬から一般の利用が増えるといった特異な状況が発生しました。他にも、全面入構禁止になった近隣私学の学生さんが教科書を求めて来店されるということもあつたようです。

また、緊急事態宣言の発令以降、大型通販サイトも生活必需品の調達と出荷を優先したことや日販などネット書店の注重量が急激に増加したため受注制限をかけたことも影響したと思われます。そのため、このような現象は、GW明けの緊急事態宣言解除後には終息に向かいました。

大学生協の灯を消さないために

京都大学は後期もオンライン講義が中心となり、ショッピングブルネの一日来店客数は二〇〇名前後と通常の半分に満たない状況となっています。九月三〇日付で京大大学生協の

ホームページに「京大大学生生活協同組合の経営状況のご報告と利用促進のお願い」という文書を掲載しました。主に、店舗・食堂では大幅に利用者が減少、購買では昨年度と比較して五六%の減少(868,975人→389,073人)、食堂では六〇%の減少(1,263,273人→400,888人)となっていることを踏まえ、本年度の決算見通も、三億円の「赤字」が見込まれ、前年度までの累積損失金が一億二〇〇〇万円を加えると出資金額(四億七〇〇〇万円・二〇一九年度末実績)を超える損失金となる「債務超過」に陥る可能性が高まっている現状をご報告しています。この文書の掲載後、先生方やOB、OGの方から「お世話になった生協が無くならないように支援したい」といった涙の出るような力強い励ましのメールをたくさん頂戴しています。

去る、一〇月二七日には、有志の先生方中心に、ショッピングブルネで「GOTO生協——どうやったら大学に来た時にみんなが生協に寄りたくなるか大作戦！」というオンラインでの公開トークイベントを実施いただきました。参加いただいた先生、学生さんと、視聴されている方々から、どうしたら生協に寄りたくなるかというアイデアを出していただき、改めて生協に関わっていただいている組合員の力を実感しています。いただいたアイデアを具現化していくことで、京大大学生協が教科書事業も含め京都大学の勉学・研究・福利厚生を支える存在であり続けることができるとともに、よりよい生協を目指してまいります。

特集＊コロナ禍のなかで知を届ける——未曾有の事態に、私達はどう動いたか？

〈普通の人びと〉に寄り添う言葉を

上村和馬（慶應義塾大学出版会 編集部）

コロナ禍は、出版業界とくに書籍の流通に甚大な影響を与えたが、殊、編集や企画立案に限っていえば、その影響は限定的だと思っている。とはいえ、コロナ禍が他者との関係のあり方や働き方をドラスティックに変えたのは間違いないと思うし、社会の深層の次元で何を本質的に変えたのか、もう少し状況をよく見極めたいと思う。

企画開発はいつも暗中模索だ。暗闇のなかを手探りで進んでいる感じで、何か道標となるようなものの手応えを感じないと、その先に進むことができない。学生の頃、広島や長崎、沖縄を何度も訪れるうちに、漠然と、戦争には行きたくない、戦争を起こすような国には住みたくないと思うようになった。編集者になって、最初に小熊英二さんに出会ってから、歴史学や社会学の本を読むようになって、その思いを強くした。小熊さんと『癒し』のナシヨナリズム』を造って、草の根保守運動に関わる人々のメンタリ

ティを知ると、社会問題や国際情勢にも関心をもつようになった。その背後にある〈普通の人びと〉のメンタリティをもっとよく知りたい、理解したいと思うようになった。

編集者なのだから、ある事象の真因を本質的に捉える言葉を生産したい、そのような言葉を本にして、社会に送り出したいと思うようになった。そして、ティモシー・スナイダーに出会った。スナイダーは東欧やロシアの史料を駆使して、ドイツの史料に偏ったこれまでのホロコースト解釈とは異なるホロコースト像を描き、ナチス・ドイツとソ連に二重に国家の行政機構を破壊され無法化された地域で、

〈普通の人びと〉がユダヤ人殺害に加担した状況を『ブラックアース』に描いた。また現在のヨーロッパやアメリカの社会状況が一九三〇年代の状況に回帰していると考えた彼は、歴史から得た教訓を『暴政』という小さな警世の書にまとめた。世界各国でポピュリストィックな右派政権が

史上最大の革命

1918年11月、
ヴァイマル民主政の幕開け

ゲルヴァルト それは民主主義の失敗だったのか。ナチの台頭で崩壊したヴァイマル期の実像を活写する。小原 淳他訳 ¥4600

イエスの意味はイエス、それから…

エムケ #MeTooは社会が変化するための新たな知覚を開いた。暴力を問い、小さな声で世界を変える一冊。浅井 晶子訳 ¥2800

感情史の始まり

ブランパー 感情史とは。感情を主題に人文社会科学と生命科学を架橋する、歴史学研究の斬新な成果。森田 直子監訳 ¥6300

シネアスト宮崎駿

奇異なものポエジー

ルルー 『千と千尋の神隠し』ほか世界の映画史をふまえ精緻な作品分析を積みかさねた傑作モノグラフィ。岡村 民夫訳 ¥3600

懐古する想像力

イングランドの批評と歴史

コリーニ エリオットからウィリアムズまで。同時代社会を彩る歴史認識をもたらしききた文芸批評の展開。近藤 康裕訳 ¥5200

PCRの誕生

バイオテクノロジーのエスノグラフィー
ラビノウ PCRを生んだベンチャー企業の実像を、人類学者が科学社会学の研究対象として鮮やかに叙述。渡辺 政隆訳 ¥3800

西洋哲学史

ラッセル 古代ギリシャから20世紀前半まで。時代背景とともにウィット溢れる文章で描く。市井 三郎訳 [新装合本] ¥15000

東京文京本郷
2丁目20-7
mizusuzubooks
tel. 3814-0131 fax 3818-6435 (税別)
www.ms2.co.jp

誕生し、露骨な排外主義や人種主義が社会を覆うようになると、今度はタナハシ・コーツが気になり、アメリカの政治や社会の隅々まで白人至上主義が巣食っている有り様を描いた『世界と僕のあいだに』や『僕の大統領は黒人だった』を出した。すると、日本もそのような状況と無縁ではないように感じられたため、小熊さんと相談して、『日本は「右傾化」したのか』を造った。もし本当に日本社会が右傾化しているなら、誰が、なぜ、どのようにその意識を変えたのか知りたくなったからだ。〈普通の人びと〉のメンタリティの変容をあらためて知りたくなった。だから、ここに挙げたような本は僕自身が知りたかった。理解したいと思っ、手探りで企画を考え一連の流れのなかにある。

辛さから解放される術はあるのか。それを言葉にすることはできるのか。それを本という形に残すことはできるのか。ここに簡略的に書いたような問題関心の線は、樹の幹や枝葉のように自分のなかで多種多様に広がっている。そこに具体的なテーマや書き手、社会的な要請といった点と線が自ずから交錯してきた時、企画の種が生まれてゆく。コロナ禍で直観したのは、僕らがグローバルな世界に住んでいるということだ。公共の福祉や格差、貧困問題、医療体制の脆弱性などなど。それがどんな企画に結実するか。社会の欲望を可視化するような言葉を生産したいと思うが、いかなる問いを立てるか、日々頭を悩ませている。言葉が世界を変えるときそんな大仰なことは思わない。けれども、香港の民主化デモで、若者たちがスナイダーの『暴政』の言葉をプラカードに掲げて闘っている姿を見たとき、〈普通の人びと〉の心の拠り所になる言葉もあるんだととても驚かされた。これからも日々頭を悩ませて、そんな言葉の生産に携わっていきたいと思う。

特集*コロナ禍のなかで知を届ける——未曾有の事態に、私達はどう動いたか？

「問い」を深めながら

川端 博

(名古屋外国語大学出版会 編集主任)

「いま本当に苦しんでいる人の声を届けたい」

先日の企画会議で、ある教諭が言いました。

「でも、ソーシャルディスタンスとやらで、近づくことも会うこともできない人から、そんな真実の声を聞くことができるのでしょうか」

イギリスでは六人以上の会は禁止と決められたそうだ。ニュースを伝えたBBCのアナウンサーいわく「では本当に会いたい人は誰なのか、決めなくてはなりませんね」。

コロナ禍で、あらためてつきつけられる。そんな大事なことも考えずに、本を作っていたかもしれない。メールで著者とやりとりし、パソコンだけで編集、データ入稿。

完成した本は電子化され、オンライン書店で販売。著者の顔はもちろん、読者の顔も見えないままで。

だから伝わる言葉は肉声を欠き、ついでに重さも欠いていたのか。出版は言葉をあやつる仕事だが、言葉の本来の

力が、少しずつ失われてきていた気がした。

京都大学・前総長の山極寿一先生が、今の災厄に関して言われたこと。「大学人はその持てる知識を、今こそ普通の人に、普通の言葉で届けなければならぬ」

新型ウイルスという得体のしれない、目に見えない敵に脅えているのは、世界のすべての人たちだろう。よりよく生き抜き、考える手がかりを、必死になつて求めている。大学の出版部も、応えることができるのではないか。

内外の思想家たちは、コロナ世界について解釈や分析を語り、出版しつづける。過去との比較、ポスト時代は云々。たしかに3・11直後に比べれば、人文系の言葉は届きやすい。この事態をどう捉え、どう考えるかの段階に入ってきたからだ。でも、いろいろな論考を読んでもなぜか虚しく、既成の言説を水平に並べかえていただけ、と感じてしまう。だいいち分かりにくくて。密室でつむがれる知が、

日本国憲法のお誕生

その受容の歴史
 江橋 崇著
 四六判 2,200円+税

これまで歴史のひだに隠されていたもうひとつの憲法物語。制定記念グッズや祝賀行事、公式記録などの深読みを通して、その物語をひも解く。

法学を学ぶのはなぜ?

気づいたら法学部、にならないための法学入門
 森田 果著
 四六判 1,400円+税

「法学ってどんなことを学ぶの? 法律とか条文……とか、なんだかつまらなそう……」
 わかります! でも少しだけ、この本を開いてみて——
 「ことば」を通して社会を変えていく、そんな法学の世界、その魅力をお届けします。



●図書目録送呈●

本当に苦しんでいる人の胸に響くのか。
 言葉がその背中に乗せる知識も軽くなった。クイズ番組が全盛で、知識の量が人間のランク付け、ひいては差別につながっているのにも気づかない。「知識」じたいがお手軽な消耗品、分断の道具にすらみえる。
 本当に必要なのは、従来の考え方とは違う問いを重ね、わかりやすい真実の言葉を探していくことだと思う。
 そんな「知」を届けるためには、自身も、企画会議でも、まず「問い」を垂直に深めていく作業が必要だろう。
 安易ですが、『国境の経済学』という企画があるとすると、これまでなら、国境はいつ誕生したか、国家単位の経済とは何か、アンチテーゼとしてのグローバル経済とは、等の顕在化している疑問を並べれば、目次が簡便にできた。
 いま、問いの次元を、みんなの知恵を借りて垂直方向に変えてみる。国境をつくったのは誰なのだろう。なぜ彼らにその必要があったのか。国境をつくることで排除されたものとは何か。そして「そもそも境界線は本当に必要か」

「それは、人を(わたしを)幸せにするのか」
 昔は評判の悪かった根源的な「そもそも論」が求められている。そもそも出版、編集って、なんなのだ?
 こんなふうにして感性を研ぎ澄まし、迷いをぐるぐると重ねること、運よく思考の深みに降りていくことができたら、いくつか「最後の問い」にたどり着くこともある。
 いま死んでいいのか(それはイヤだなあ、もつと普通に死にたい。普通ってなに?)。ではお尋ねするが、いま生まれたらどうする?(人と二メートル離れなければならないこの世界に? 人間がマスクで顔を隠す世界に?)
 そんな問いかけの底からなんとか浮上してきたとき、付録として、思いきり妙なアイデアがくつついてきたりする。
 ある編集者の夢に、こんな幻のタイトルが浮かんだ。
 『遊牧都市国家論』……人との距離も自由で、執着しない……境界も国境もない、伸び縮みする都市、草を食む町、いつのまにか消えている道。明日はどこへ行くのかと考える人たちの世界……普通の言葉が普通の人に届くような。

特集*コロナ禍のなかで知を届ける——未曾有の事態に、私達はどうか動いたか？

コロナ禍のなかで本を届けるために

丸山俊紀

(名古屋大学出版会 総務・営業部)

緊急事態宣言の発令——さまざまな書店が一時休業を余儀なくされ、オンライン書店では在庫切れが増加。五・六月の主要な学会大会も中止や延期、もしくはオンライン開催へと移行し、出展の機会も失われた。

書店からの注文電話が鳴らない静かな社内。出社すれば、いつもならファックス注文がトレイにたまっているのに、今朝もファックス注文はゼロ……ある程度状況が変わるのを待つしかない部分もあったのだが、そういったなかでも、読者の本を欲する気持ち・意欲は変わらない。いや、むしろ、そういった状況だったからこそ、本を求めていた人も少なからずいた。

そんな状況下、とにかくすぐにできることとして、一人でも多くの読者へ本を届けるべく、小会への直接注文分については、当面のあいだ送料無料で提供することとし、ホームページ上やメールマガジン、SNSで随時案内をおこ

なうとともに注文を募った。四〜六月のところでは、教科書やロングセラーの銘柄を中心に、読者からの直接注文が一時的に増加。その後、現場の方々の大変な尽力により、店舗は徐々に営業を再開し、オンライン書店の在庫状況も回復していくにつれて、直接注文の件数は減少していった。また、いくつかの学会大会ではオンライン書籍展示の試みが始まり、研究者への販促の機会も少しずつ増えてきた。

もともと、読者への直販については関心を持っており、その可能性について時折考えることはあった。だからといって、これまで何か具体的な取組みをしてきたわけではないのだが、コロナ禍において主要な販路の機能不全に直面し、読者への直販の可能性について考えざるを得なくなってきた出版社も多いのではないだろうか。

このかんさまざまに指摘されてきた出版流通に関する問

知泉書館

ヘーゲル全集

〔全19巻・24冊、刊行中〕

3巻 イェーナ期批判論稿
田端信廣編集

菊 /844p/12000 円

10巻1「論理学」客観的論理学：存在論
久保陽一編集

菊 /436p/6000 円

11巻 ハイデルベルク・エントウクロパディー
山口誠一編集

菊 /688p/9000 円

15巻 自筆講義録I (1816-31)
小林亜津子／山口誠一編集

菊 /648p/9500 円

人文学の学び方

探究と発見の喜び

金子晴勇 半世紀以上の経験
と著者独自の豊かな知見を踏
まえ、教養や人文学を丁寧に
紹介 四六 /216p/2600 円

人文学概論 (増補改訂版)

人文知の新たな構築をめざして
安酸敏真 人文学の学習を始
める人が専門分野を超え習得
すべき内容を簡潔に提示した
入門書 四六 /312p/2500 円

唐宋音楽文化論

詩文が織り成す音の世界
中 純子 李白や蘇軾の作品
など多岐にわたる文献を用い
て、唐宋の音楽世界を今に伝
える A5/368p/6000 円

【第63回日経・経済図書文化賞受賞】

意思決定理論

〔数理経済学叢書 10〕

林 貴志 行動経済学を理論
的に基礎づけた世界で初の本
格的業績。数理経済学徒待望
の書 菊 /252p/4500 円

東京都文京区本郷 1-13-2 (税抜)
TEL03-3814-6161 FAX03-3814-6166
<http://chisen.co.jp>

題、また、書店数の減少による店頭での販売機会の低減な
どもあり、従来の販路を補完する、新たな販路を開拓する
ことの必要性はしばしば語られるところである。今回の事
態を受け、あらためて読者への直販について考えてみたが、
限られたマンパワーのなか、これを一つの販路としてそれ
なりに軌道にのせることは、やはりなかなか難しい（紙幅
の関係で具体的な論点には言及できないが）。しかし、コロナ
以前からすでにさまざまな形で読者への直販を試みている
出版社はあるし、また、読者への直販は、読者との接点を
つくるための、ひとつのやり方になりうるものでもある（出
版社の営業・販売担当者にとって、読者は、近いようで実は遠
い存在であったりする）。さらに、コロナ禍をうけて、既存
のSNSやウェブメディアに加え、zoomをはじめとし
たオンラインツールが浸透したこともあり、読者へのダイ
レクトなアプローチの可能性がさらに広がっている。

コロナ禍という未曾有の事態にまきこまれつつも、現場
で物流・販売に携わる方々が果敢に力を尽くされているか
らこそ、今日も読者へ本が届けられる。しかし、コロナ禍
はまだ続くだろうし、さらに状況が悪化する可能性も十分
にある（この駄文をしたためている現在、感染拡大の第三波
到来が懸念されている）。感染症にかぎらず、自然災害など
更なる脅威が生じることもありうる。いろんなリスクが懸
念されるなか、どのような販路を採るにせよ、とにかく読
者へ確実に本を届けなければならぬ。今回のような物
流・販売停滞のリスクを減らす意味も含め、複数の販路を
想定・開拓しておくことは、当たり前だけれども実に難し
い課題。その必要性をあらためて痛感している。

（ウィズコロナ、アフターコロナを考えるにあたっては、電
子書籍化についても言及すべきところではあるが、今回は紙の
書籍の話に限定させていただいた。）

大学出版部ニュース

表示価格は税別です。

大学出版部協会・活動報告

十月二日(金) 一五時〇〇分

編集部会

於・ZOOMでの開催

十月一六日(金) 一五時〇〇分

営業部会

於・ZOOMでの開催

十月二三日(金) 一四時三〇分

臨時総会

於・ZOOMでの開催

十月二三日(金) 一五時三〇分

第五回 理事会

於・ZOOMでの開催

十一月一二日(木) 一五時〇〇分

編集部会・秋季研修会

於・ZOOMでの開催

十一月一三日(金) 一五時〇〇分

営業部会

於・ZOOMでの開催

十二月四日(金) 一五時三〇分

第四回 理事会

於・ZOOMでの開催

北海道大学出版会

▼櫻井義秀編著『アジアの公共宗教―ポスト社会主義国家の政教関係』(A5判・三五二頁・六二〇〇円) 現代宗教が公共圏に参画する形態を比較社会学的に分析。アジア発の新たな公共宗教論の構築を目指す。

▼真鍋一史著『宗教意識の国際比較―質問紙調査のデータ分析』(A5判・三七六頁・八〇〇〇円) 異なる文化的背景を持つ人々の宗教についての意識を、日欧の国際比較を通して実証的に探究。社会科学の方法論に新しい地平を拓く。

▼岡田信弘編著『議会審議の国際比較―【議会と時間】の諸相』(A5判・三一〇頁・五八〇〇円)。憲法をはじめとする制度的枠組みに加え、議員任期や会期、議事日程といった「時間」という要素にも着目し、議会審議の国際比較を試みる。

▼古川浩司・ルルクド薫編著『知っておきたいパラオ―ボーダーランズの記憶を求めて』(B5判・六〇頁・九〇〇円) 青い海の絨毯が島の周りでどこまでも続く……暖かく、人々の優しさが身に染みる南の島パラオ。日本とも深い関わりをもつその歴史と文化、暮らしを伝える。

弘前大学出版会

▼長瀬智行・吉岡良雄・別宮耕一 共著『暗号技術を支える数学』（B5判・二三二頁・二四〇〇円）キヤッシュュレス時代に不可欠な情報保護や暗号、著作権保護の仕組みを分かり易く解説。より頑強な暗号や情報保護の仕組みを構築するために必要な事項を基礎から学べる一冊。付録には計算結果や処置方法についてのC言語プログラムを掲載。



▼弘前大学出版会編『弘前大学レクチャーコレクション』学びの世界へようこそ』（A5判・三〇七頁・一六〇〇円）大学ではどんなことが学べるの？どんな授業をしているの？やさしくわかりやすい語り口で、バラエティーに富んだテーマから学ぶことの楽しさを紹介している。大学での学びの導きに。



東北大学出版会

▼中嶋英介著『近世武士道論―山鹿素行と大道寺友山の「武士」育成』（A5判・二七〇頁・五七〇〇円）現代日本において時に好意的に評される「武士道」なる主従倫理は、武断政治から文治政治へ至る一七世紀半ば以降、大きな変革を迎えた。己の命をかけて戦う戦闘員から御家運営に携わる官僚へと役割が変化する中、思想家はいかなる教訓を提示したのか。近世武士道論の系譜に軌跡を残した思想家山鹿素行・大道寺友山を軸に、彼らが教訓の対象とした武士層とその育成論を思想・史料の両面から検討する。

▼鳥山欽哉編『農学生命科学を学ぶための入門生物学「改訂版」』（B5判・二三八頁・二八〇〇円）農学生命科学は「ヒトと動植物」の関係を動植物サイドから遺伝子→細胞→個体→集団のレベルで研究・理解することにより、資源動植物の開発、食料増産、砂漠の緑化、疾病の防除、地球温暖化の軽減など、人類の繁栄と発展への貢献を主眼とする。高校で「生物」を履修していない学生にも農学生命科学にスムーズに入れるように配慮した農学領域ではじめての入門書。

流通経済大学出版会

▼幸田麻里子／臺純子著『会いたい気持ち動かすファンタリズム―「韓流」ブームが示唆したもの、「嵐」ファンに教わったこと』（四六判・一八〇頁・九五〇円）憧れの俳優、応援するアイドルのコンサートやイベントに参加するために移動するファンタリズム……本書はこれを詳細に分析し、こうした現代的な観光に迫る。



▼川崎愛著『ハンセン病は人に何をもちらしたのか』（四六判・三〇四頁・一一〇〇円）療養所で暮らす病歴者の自発的な表現活動を通して「自己差別」から自身を解放し、社会を動かしていく道筋を明らかにする。



聖徳大学出版会

▼塩美佐枝・古川寿子・重安智子・井口厚子・関口明子著『教職実践演習―幼稚園教諭・保育士・保育教諭を目指すために』（B5判・一四〇頁・一六〇〇円）
幼児教育に携わるために学んできた総まとめとして、いじめ、食育、特別支援教育や、幼・小連携、家庭や地域との連携の大切さを具体例を挙げて説明。総合的な実践的指導力の基礎を修得できる一冊。
▼宇佐美博子・河村久・神田由紀・黒須利夫・小林芳枝・長橋雅俊・松井孝夫・八木正一著『教職実践演習』（B5判・一四六頁・一六〇〇円）
中学校・高等学校教諭を目指す方に向け、教職課程の振り返りから生徒指導要録・通知表の記入の仕方まで解説。教職の魅力が満載。
▼高橋裕樹著『新しい時代のキャリアデザイン―自分の人生を自ら描くために』（A4判・一六七頁・一六〇〇円）
全十五章構成で、記入式ワークシートを使いながら、キャリアデザインの基礎から応用まで段階的に理解を深める。「なぜ働くのか」を問いかけてつづ、一人ひとりが激動の時代を乗り切り、力強く生きるための人生の羅針盤となる書。

慶應義塾大学出版会

▼大川玲子著『リベラルなイスラーム―自分らしくある宗教講義』（四六判・二八八頁・二〇〇〇円）
なぜイスラーム教徒はテロを起こすのか？なぜ男性が優位な社会なのか？本書では、クルアーンというテクストを「リベラル」な解釈に開いた人物たちに着目。一人一人が生きやすい社会をつくるための歩みを見る。
▼ティモシー・スナイダー／池田年穂訳『アメリカの病』（四六判・一六〇頁・一四〇〇円）
オバマケアの復活なるか――。肝臓の敗血症により生死の淵を彷徨う体験を経た著者が、コロナ禍により、世界一の感染者数、死者数となつているアメリカの医療ケアシステムや公衆衛生の脆弱さ、人権問題、民主主義の陥穽を衝く、病床現場からの緊急レポート。
▼源河亨著『感情の哲学入門講義』（四六判・二四〇頁・一八〇〇円）
私たちの生活の中心にある「感情」をテーマにした哲学の入門書。心理学、脳神経科学、文化人類学、進化生物学などの研究も紹介しつつ、感情や人間がどういうものか、十五回にわたる講義でわかりやすく語る。

専修大学出版局

▼宮崎晃臣編著 長尾謙吉・小池隆生・永江雅和・徐一睿・飯田義明著『日本における地域経済・社会の現状と歴史―生活環境の視点から』（四六判・二二四頁・一五〇〇円）
現下の地域経済・社会について、その歴史的経緯を踏まえ、産業、意識構造、インフラ、スポーツと総じて生活の視点から詳らかにする。



▼根間弘海著『大相撲行司の松翁と四本柱の四色』（A5判・一九六頁・二七〇〇円）
行司の称号である「松翁」、草履と足袋の出現、役相撲の褒美の弓と扇子、四本柱（現在の四房）の色など、大相撲にまつわるテーマを文字資料や錦絵・おもちゃ絵をもとに掘り下げた七つの論考を集成。



玉川大学出版部

▼吉田稔美著『ピープショー のぞきからくり』(B5判・一四四頁・三八〇〇円)『ピープショー』は17世紀末にヨーロッパで遠近法を広めるために考案された光学おもちゃ。内側に絵が描かれた箱に開けた小さな穴を片目でのぞくと、絞り効果で中の絵が奥行きを伴って立体的に見える。不思議な体験が味わえた。その歴史と仕組みを多数の図版を使って紹介。

▼工藤巨編著『アドベンチャーと教育』(B5判・一九二頁・二四〇〇円) 予測不能で困難な時代を切り拓き、未来を創造してゆく若者が夢を叶えるまでの険しい道のりを歩むためには、自己冒険力を育む必要がある。そのために効果的なアドベンチャー教育を、教師の指導と支導により実践するために、TAP理論が有効であることを詳説する。実践例の動画を見ることが出来るように、QRコードを添付。



中央大学出版部

▼鈴木彰雄著『刑法論集』(日本比較法研究所研究叢書第121号)(A5判・三〇六頁・三六〇〇円) 犯罪論の中から不作為犯、正当防衛、誤想防衛、共謀共同正犯、間接正犯、教唆犯等の問題を取りあげ、ドイツ法の知見を参照しつつ検討した論文集。これまでわが国で十分に論じられてこなかった問題も紹介する。

▼吉見大洋編『トランプ時代の世界経済』(中央大学経済研究所研究叢書第76号)(A5判・二八〇頁・三三〇〇円) トランプ政権誕生からのこの四年間に、世界では保護主義と自国第一主義が台頭した。本書では多角的な観点からトランプ政権が世界経済に与えた影響を検証する。トランプ時代の世界経済のパラダイムシフトを理解するための一冊。

▼斯波照雄著『中近世ハンザ都市の展開』(中央大学学術図書第101号)(A5判・一七二頁・一七〇〇円) 中近世ハンザ都市の財政構造とその近代に向けての変化を比較検討し中近世における北海、バルト海貿易の変遷を通じて、中世ハンザ都市の近代都市化の過程と特徴を複数都市の比較検討で実証的に明確にする。

東京大学出版会

▼川島真・森聡編『Up, us, アフターコロナ時代の米中関係と世界秩序』(A5判・二三〇頁・一七〇〇円) 中国とアメリカを中心にした世界秩序の力学がどう変化するのか。現在の世界状況を踏まえ、多角的な視点から気鋭の研究者が論じる。

▼川島真・池内恵編『Up, us, 新興国から見るアフターコロナの時代』(A5判・一八〇頁・一五〇〇円) 新型コロナウイルス感染症により大きく変化する国際関係を、地域大国といわれる国々を中心に分析し、最新動向を踏まえ展望する。

▼吉見俊哉・森本祥子編『東大という思想―群像としての近代知』(四六判・三六〇頁・三五〇〇円) 「建学の理念」不在の東大。医学・工学・社会学・政治学・経済学ほか一線の研究者が自らの始祖たちの像の素描に取組んだ異色の書物。

▼阿部公彦著『理想のリスニング―人間のモヤモヤ』(A5判・二二八頁・二三〇〇円) 「聞く」を通して、英語力の基礎をつくるための考え方や練習法を解説。単なる「実用英語」をこえて、語学の本来の意義も考える。日本語話者のための英語習得法。

東京電機大学出版局

▼広石英紀編著『理工系大学でどう学ぶ? ―つなげてつくる』工学への招待 (A5判・一六八頁・二四〇〇円) 理工系学生がどのように学ぶか、学ぶにあたって必要な事項とは何か? 学生自らが大学での学びをデザインするための入門書。実社会での有用性を目的に構成された理工系大学の特徴をわかりやすく解説。「今までの学びとこれからの学び」「自らの専門分野と他の専門分野」様々な人々と科学技術」などの「つながり」を鍵により実用的・実践的である理工系大学での学びを充実させるために必要な「学び方、考え方のエッセンスやヒント」が詰まっている。

▼大浜庄司著『図解 シーケンス制御の考え方・読み方第5版―初歩から実際まで』(A5判・二五六頁・三〇〇〇円) 工業の行程における自動化・省力化に欠かせないシーケンス制御について、初学者から現場実務者までを対象に、基礎から実際までを学べる構成とした。新版では、最新の国際規格とJIS規格との整合化を図った。また、実際の制御機器の操作がよくわかるよう工夫した。

法政大学出版局

▼M・ムーア著 白川俊介訳『領土の政治理論』(A5判・三八四頁・四五〇〇円) 世界各地で頻発する国境管理や天然資源をめぐる領土と境界線にまつわる問題を解決するうえで、哲学的な糸口を探求。領土とは何か、規範理論から問う。

▼生方淳子著 M・コンタ序『戦場の哲学―存在と無』に見るサルトルのレジスタンス (A5判・五六六頁・五八〇〇円) カント、ヘーゲル、フッサール、ハイデガーの批判的継承から新たな自由の哲学を打ち立て、自己欺瞞、無反省な服従、戦争を招く《愚劣さ》に抵抗する。

▼V・v・ヴァイツゼカー著 木村敏・丸橋裕監訳『自然と精神/出会いと決断―ある医師の回想』(四六判・六五八頁・七五〇〇円) 著者独自の医療実践はどのように形成されていったのか。医者哲学者による自伝的告白の書。

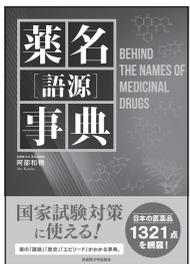
▼恒川邦夫著『サン・ジョン・ペルスと中国―(アジアからの手紙)と「遠征」』(四六判・四九六頁・四六〇〇円) 近代カリブ海文学の父とみなされた詩人の中国時代の手紙や初期詩篇を紹介し、その内容を初めて浮き彫りにする労作。

武蔵野大学出版会

▼廣瀬裕之著『増補版』刻された書と石の記憶 (A5判・二七二頁・二五〇〇円) 東京都武蔵野市の「国木田独歩詩碑」「国木田独歩文学碑」「松本訓導殉難碑」「桜樹接種碑」について、「書」と「刻」と「石」を読み解きます(二〇一二年に発売された本の増補版です)。



▼阿部和徳著『薬名「語源」事典』(B5判・七六〇頁・六八〇〇円) その薬はなぜその名前がついたのか? 「語源」―歴史「エピソード」から薬名の由来を解説。日本の医薬品1321点を網羅した、薬剤師国家試験対策にも最適な一冊。



武蔵野美術大学出版局

▼十時啓悦著『日々の器 悠久の漆』
(B5判変型・一二八頁・二三〇〇円)

鏡面のような艶をもつ黒漆、洗朱の鮮やかさ、箔のかすれと輝き、用の美である根来塗り、木肌・布肌の風合い、錆漆の陰影、不定形の造形美を見せる乾漆技法……木地制作から加飾まで一貫した制作を続ける漆芸家・十時啓悦の代表的な作品を通して、日々の器である漆の魅力を伝え、木の道具のあり方を追究する。

一章「創作と実践」は具体的な作品をあげながら漆の技法と魅力について、二章「木と漆」では、漆の特性と木地制作に必要な木の知識、木と社会のあり方について、三章「暮らしのなかの漆」は優れた作品や道具とともにある暮らしへの著者の思い、生活と芸術の間にある距離を作品としていかに表現するかという作家としての試行錯誤と工夫を披瀝する。四章「悠久の漆」では、樹木の恵み・漆の恵みをもとに享受できるアジア人として、木の道具・漆の器のある暮らしを今こそ見直すべきであると、未来に向けた著者の思いを伝える。

明星大学出版部

▼神林寿幸・樋口修資・青木純一『背景と実態から読み解く教育行財政』(A5判・三四〇頁・二七〇〇円)

本書は豊富な資料、データをもとに背景と実態に着目しながら日本の教育行財政制度を詳細に解説する。初学者に加えて、教育行財政を専攻し、学位論文執筆にむけて研究テーマを探している、あるいは関連事項の理解を深めたいという学生、大学院生にぜひ読んでほしい。さらに、教育行財政制度について学びたいという教育関係者にもおすすしめしたい。

▼樋口修資『第2版 教育の制度と経営15講』(A5判・二四〇頁・二〇〇〇円)
憲法・教育基本法体制及び公教育制度を支える国と地方の教育行政の仕組みを踏まえて、学校制度と就学制度、学校の管理運営と組織編成、教職員の身分・サービスと勤務管理や研修制度、学校の説明責任と地域参画の学校づくりなど教育の制度的・経営的事項の全体像を明らかにする。また、教育課程と生徒指導について取り上げるとともに、安全安心な学校生活を確保するための学校の保健安全管理の事項を取り上げる。

早稲田大学出版部

※『早稲田新書』十二月一日創刊

▼加藤諦三著『生きることに疲れたあなたが一番にしなければならぬことー加藤諦三の新・人間関係論(早稲田新書001)』(新書判・一八〇頁・九〇〇円)
半世紀にわたり人のあらゆる悩みを受け止めてきた著者渾身の一作。

▼森永邦彦著『AとZーアンリアレイジのファクション(早稲田新書002)』(新書判・二〇二頁・九〇〇円) パリコレで活躍する日本人トップデザイナー初書き下ろし。

▼小山鉄郎著『村上春樹の動物誌(早稲田新書003)』(新書判・二七二頁・九〇〇円) 村上春樹氏のインタビューを所収! 日本記者クラブ賞に輝いた文芸記者の著者が、動物を手がかりに村上文学の森に深く分け入る。



関東学院大学出版会

▼岩佐 壯四郎著『点景 昭和期の文学』（四六判・二九六頁・二八〇〇円）川端康成・三島由紀夫・水上勉・野坂昭如・阿部昭・福田恆存・飯沢匡・井上ひさしらの作品を通して、「昭和」という舞台の複雑な表情に光をあてる。

「目次」第一部（川端康成「花鳥之図」―「化粧」について／川端康成「死者の書」論―一九三〇年代の文学にみる死の意識をめぐって／三島由紀夫「復讐」への私注／海という墓―水上勉の初期作品・素描／野坂昭如「火垂るの墓」を読む／治療行為といういやし―山本周五郎「赤ひげ診療譚」／単独者の出発―井伏鱒二集金旅行―青春の闇―阿部昭の青春小説／岡松文学の魅力―峠の棲家）にふれて

第二部（稲垣達郎と北川清／川端康成と演劇―その背景／森本薫の出版／戦後という喜劇―福田と飯沢／一九四五年八月末の演劇―井上ひさし「連鎖街のひとびと」／二〇一〇年のチェーホフ／龍の手触り―福田恆存「龍を撫でた男」）



名古屋大学出版会

▼杉原薫著『世界史のなかの東アジアの奇跡』（A5判・七七六頁・六三〇〇円）豊かさをもたらす工業化の世界的普及は、「東アジアの奇跡」なしにはありえなかった。それは「ヨーロッパの奇跡」とは異なる、分配の奇跡だった。複数の発展径路のダイナミックな交錯と融合による、グローバル・ヒストリーの到達点。

▼大塚淳著『統計学を哲学する』（A5判・二四八頁・三二〇〇円）統計はなぜ科学的な根拠になるのか？ 実験や臨床試験、社会調査だけでなく、ビッグデータ分析やAI開発でも必要不可欠である統計学・データサイエンスを、科学的認識論として捉え直し、帰納推論の背後に存在する枠組みを浮き彫りにする待望作。

▼永岡崇著『宗教文化は誰のものか―大本弾圧事件と戦後日本』（A5判・三五二頁・五四〇〇円）最大の宗教弾圧事件の記憶は戦後、いかに読み直され、なを生み出してきたのか。教団による平和運動を導くとともに、アカデミアにおける「民衆宗教」像の核ともなった「邪宗門」言説の現代史から、多様な主体が交差する新たな宗教文化の捉え方を提示。

名古屋外国語大学出版会

▼川原功司著『言語の構造―人間の言葉と動物のコトバ』（A5判・三〇八頁・六三〇〇円）動物との比較も踏まえた新鮮な言語理論。言語の仕組みとは何か？



▼松山洋平著『第二外国語で学ぶアラビア語入門』（B5判・一七〇頁・二八〇〇円）アラビア文字を大きく表記。初めての教科書にも最適な楽しい学び方。



▼石田聖子・白井史人編著『世界の映画』（仮・A5判、近刊予定）各国・地域の映画を歴史的にたどり、さらにテーマごとに詳細に分析。映像世界への招待状。

▼地田徹朗・シンジルト編著『牧畜のエコロジー』（仮・A5判、近刊予定）世界の牧畜社会の仕組みと共生の形態。

三重大学出版会

▼寺尾智史著『ミランダ語が生まれたとき―ポルトガル・スペイン辺境における言語復興史』（A5判・一五二頁・五六三〇円）

「ミランダ語」は長い間、ポルトガル・ミランダ地域の一方言とされてきた。それが1998年に言語へ昇格を果たす。なぜか？

▼三重大学出版会二十年史編集委員会編『三重大学出版会二十年史』（B5判・一〇五頁・八〇〇円）

ビジョンなし、ノルマなし、サラリーなし。不可思議な出版会はこうして立ち上がった！

▼鈴鹿医療科学大学編『医療人の基礎知識（第3版）／医療人の底力実践（第3版）』（B5カラー判・一六六頁／一六八頁・一九〇〇円／一八〇〇円）

机上に備え、繰り返し読むのが教科書だ。基礎知識を確認する時、医療実践の原点に返る時、これらの教科書が役立つ。第2版刊行から3年、医療は日々進歩している。新たに加わった事柄も含め、第3版は大幅改訂を行った。

京都大学学術出版会

▼鈴木哲也著『学術書を読む』（A5判・一三八頁・一五〇〇円）読む意味、選ぶ技―「専門化の罠」に落ちない学びのために、「書く」現場に携わる大学出版の編集者が、専門を越え、広く知の世界に触れる実践を語る。佐藤文隆氏（元日本物理学会会長）推薦。◎好評既刊『鈴木哲也・高瀬桃子著『学術書を書く』（A5判・一六〇頁・一七〇〇円）

▼清水展・飯嶋秀治編『自前の思想―時代と社会に応答するフィールドワーク』（A5判・四五四頁・四四〇〇円）時代の激動に巻き込まれながら、時代と強く向き合った先人―中村哲、波平恵美子、本多勝一、石牟礼道子、鶴見良行、中根千枝、梅棹忠夫、川喜田二郎、宮本常一、岡正雄―に学び、学問の責務を問う。

▼田路貴浩編『分離派建築会―日本のモダニズム建築誕生』（A5判・五九〇頁・四四〇〇円）我々は起つ。―一九二〇年、若き建築家6人は、過去の建築との決別を宣言した。二十世紀初頭の芸術運動の流れを汲み、本邦初の近代建築運動として知られる分離派建築会。彼らが追求めた芸術と建築の融合とは？

大阪大学出版会

▼池田光徳著『暴力の政治民族誌―現代マヤ先住民の経験と記憶』（A5判・三六八頁・五九〇〇円）中米グアテマラ高地のマヤ系先住民が一九六〇～二〇〇〇年代の政治暴力的、経済的に直面した経験を綴る政治民族誌。

▼和田章男著『ブルースト―受容と創造』（A5判・四〇〇頁・六〇〇〇円）ブルーストは過去や同時代の文学・芸術をどのようにに受容し、創造へと転換したか。一次資料から相対的に検証する。

▼劉玲芳著『近代日本と中国の装いの交流史―身装文化の相互認識から相互摂取まで』（A5判・三四〇頁・五四〇〇円）西洋化への拘泥により見えにくくなっていった近代日中両国の服装の交流史。相手の身装を着用する動機の違い、効果、影響の差異。

▼竹原新著『現代イランの俗信』（A5判・三五八頁・七二〇〇円）俗信から見えるイランの人々の「幸福の追求」とは。「イスラム教の国」にとどまらない多面的な宗教観、生命観を明らかにする。

関西大学出版部

▼奥純著『アラン・ロブールグリエの小説Ⅱ』（A5判・三三二頁・四〇〇〇円）
抑圧と分断を超えた新しい生活のために、不連続な未来を生きる想像力とは何か。ヌーヴォー・ロマンの代表的フランスの小説家アラン・ロブールグリエ。難解で知られるロブールグリエ文学の真髄に迫る、世界でも類なき研究書である。



▼山根繁著『コミュニケーションのための英語音声学研究』（A5判・二五六頁・一八〇〇円）ご好評につき第二刷発行。
英語学習者のコミュニケーション能力に重要な要素は、相手に情報を正確に伝えることである。発音力の育成を目的に研究や音声指導を行うために不可欠な情報をまとめた実践書となっている。



関西学院大学出版会

▼公益事業学会編『公益事業の変容―持続可能性を超えて』（A5判・二八四頁・二四〇〇円）公益事業学会設立七十周年記念出版。気鋭の研究者による電気・ガス・水道・交通・通信、地球環境分野の歩み・現状、そして自由化・デジタル化の変容など次世代展望を徹底解説する各業界も注目の一冊。



▼横田伸子 脇田滋 和田肇編『働き方改革』の達成と限界―日本と韓国の軌跡をみつめて』（A5判・二五二頁・二四〇〇円）

▼神山美奈子著『女たちの日韓キリスト教史』（A5判・二七二頁・四四〇〇円）

▼岡崎宏樹著『バタイユからの社会学―至高性、交流、剥き出しの生』（四六判・三〇二頁・三六〇〇円）バタイユの思考から社会学理論を深化させる。

九州大学出版会

▼サー・フィリップ・シドニー／磯部初枝・小塩トシ子・川井万里子・土岐知子・根岸愛子訳『アーケイディア』【新装版】（A5判・五六六頁・九四〇〇円）英国ルネサンスを代表する散文ロマンズの全訳。待望の新装復刊。

▼本馬貞夫『世界遺産 キリシタンの里―長崎・天草の信仰史をたずねる』（四六判・二五六頁・一八〇〇円）「潜伏キリシタン関連遺産」初の網羅的入門書。史料をもとにその魅力と知られざる歴史を分かりやすく解説する。教会等をカラー写真で紹介。バーチャルな史跡探訪書としても最適な一冊。（KUP選書2）

▼菊地章編／兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科共同研究プロジェクト（W）研究グループ著『博士号につながる「教科教育実践学」論文の書き方―院生・修了生・教員が明かすアクセプトの秘訣』（A5判・一六四頁・二四〇〇円）教科教育実践学論文の執筆・投稿・掲載の秘訣を伝授。

-
- ダイニック(株) 〒105-0004 東京都港区新橋6-17-19 新御成門ビル
TEL 03-5402-1811 <https://www.dynic.co.jp>
- (株) 太平印刷社 〒140-0002 東京都品川区東品川1-6-16
TEL 03-3474-2821 <http://www.p-taihei.co.jp>
- (株) 太 洋 社 〒501-0431 岐阜県本巣郡北方町北方148-1
TEL 058-324-2111 <https://www.p-taiyosha.co.jp>
- (株) 竹 尾 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-12-6
TEL 03-3292-3617 <https://www.takeo.co.jp>
- (株) 東京弘報社 〒101-0051 東京都千代田区猿楽町1-2-1
TEL 03-3291-1771
- (株) とうこう・あい 〒104-0061 東京都中央区銀座7-13-12 サクセス銀座7ビル4F
TEL 03-5148-7200 <https://www.toko-ai.com>
- 東光整版印刷(株) 〒135-0006 東京都江東区常磐2-12-15
TEL 03-3632-0801
- 東洋美術印刷(株) 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-6-2
TEL 03-3265-9861 <https://www.toyobijutsu-prt.co.jp>
- (株) トーヨー企画 〒602-0923 京都府京都市上京区油小路通中立売上ル 油橋詰町93-7
TEL 075-411-8288 <https://www.talligent.jp>
- 図 書 印 刷 (株) 〒114-0001 東京都北区東十条3-10-36
TEL 03-5843-9700 <https://www.tosho.co.jp>
- (株) 日新広告社 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-12-10 喜久屋ビル3F
TEL 03-3263-9431 <http://www.nissinkoukokusyua.com>
- (株) 日本経済新聞社 〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7
TEL 03-6256-7528 <https://www.nikkei.co.jp>
- 日本宣伝販売(株) 〒330-0856 埼玉県さいたま市大宮区三橋3-278
TEL 048-620-1021 <http://www.nihon-senden.jp>
- (株) 博 報 堂 〒107-6322 東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー19F
TEL 03-6441-6711 <https://www.hakuhodo.co.jp>
- 藤 原 印 刷 (株) 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-4-5
TEL 03-3291-0191 <https://www.fujiwara-i.com>
- (株) 平 文 社 〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-35-7
TEL 03-3944-0301 <http://www.heibun.co.jp>
- (株) 毎日新聞社 〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1
TEL 03-3212-3340 <https://www.mainichi.co.jp>
- 誠 製 本 (株) 〒174-0042 東京都板橋区東坂下1-19-5
TEL 03-3967-3952 <http://www.makoto-seihon.com>
- (株) 遊 文 舎 〒532-0012 大阪府大阪市淀川区木川東4-17-31
TEL 06-6304-9325 <http://www.yubun.co.jp>
- (株) 読売新聞東京本社 〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1
TEL 03-3242-1111 <https://www.yomiuri.co.jp>
-

一般社団法人大学出版部協会は、私たちの活動をご理解・ご支援くださる皆様による「賛助会員」制度を設けています。ここに趣旨にご賛同くださり、ご支援いただいている各社様をご紹介します。なお、「賛助会員」に関するお問い合わせは、協会事務局までお寄せください。

一般社団法人 大学出版部協会 賛助会員名簿

- (株)朝日新聞社 〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
TEL 03-5540-7749 <https://www.asahi.com>
- 亜細亜印刷(株) 〒380-0804 長野県長野市大字三輪荒屋1154
TEL 026-243-4858 <http://www.asia-p.co.jp>
- (株)アベル社 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2-19 銀鈴会館408
TEL 03-3235-1360 <https://www.abel-sha.com>
- 尼崎印刷(株) 〒661-0975 兵庫県尼崎市下坂部3-9-20
TEL 06-6494-1122 <http://www.amain.co.jp>
- (株)ALE 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-8-6 日本橋ビル4階
TEL 03-5652-8627 <http://www.adv-logi-eng.co.jp>
- 王子製紙(株) 〒104-0061 東京都中央区銀座4-7-5
TEL 03-3563-7072 <https://www.ojipaper.co.jp>
- (株)加藤文明社印刷所 〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-15-6 K-STAGE
TEL 03-3261-8281 <http://www.bunmeisha.co.jp>
- 城島印刷(株) 〒810-0012 福岡県福岡市中央区白金2-9-6
TEL 092-531-7102 <https://www.kijima-p.co.jp>
- (株)糸川印刷 〒112-0012 東京都文京区大塚6-9-7
TEL 03-3943-9811 <http://www.kumekawa.jp>
- 株式会社クリムゾンインタラクティブジャパン 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10 第2電波ビル4F
TEL 03-3525-8001 <https://www.crimsonjapan.co.jp>
- 港北出版印刷(株) 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-7-7
TEL 03-5466-2201 <http://www.kohoku.co.jp>
- 三松堂(株) 〒101-0065 東京都千代田区西神田3-2-1 住友不動産千代田ファーストビル南館14階
TEL 03-6823-5360 <https://www.sanshodo.co.jp>
- 三美印刷(株) 〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-9-8
TEL 03-3803-3131 <https://www.sanbi.co.jp>
- 三立工芸(株) 〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-2-10 寺西ビル3F
TEL 03-3261-5171 <https://www.sanritsu-net.co.jp>
- 三和印刷(株) 〒381-2226 長野県長野市川中島町今井1822-1
TEL 026-285-2300 <http://www.sanwaprinting.jp>
- 信濃印刷(株) 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-1-11
TEL 03-3237-3601 <http://www.shinano-insatsu.co.jp>
- (株)渋谷文泉閣 〒380-0804 長野県長野市三輪荒屋1196-7
TEL 026-244-7185 <http://www.bunsenkaku.co.jp>
- (株)真興社 〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町19-2
TEL 03-3462-1181 <https://www.shinkousha.co.jp>
- 新日本印刷(株) 〒162-0801 東京都新宿区山吹町342
TEL 03-3269-3611 <https://www.sinnihon.net>
- (株)精興社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-9
TEL 03-3293-3021 <https://www.seikosha-p.co.jp>
- 創栄図書印刷(株) 〒604-0812 京都府京都市中京区高倉通二条上ル天守町766
TEL 075-255-2288 <https://www.soey-pb.co.jp>
- 大同印刷(株) 〒849-0902 佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20
TEL 0952-71-8550 <https://www.daidou-jp.com>
-

99%のためのフェミニズム宣言

シンジア・アルツァ/ティティ・パタチャーリャ/ナンシー・フレイザー 著
恵愛由訳 菊地夏野解説
四六判上製 168頁 本体価格 2,400円

1%の富裕層ではなく「99%の私たち」のために、性差別・人種主義・環境破壊のない社会を。世界に広がる女性運動と共鳴しながら、ジェンダー研究者達が性の抑圧をもたらす資本主義の終焉を呼びかける。分断を正確に認識することで、私たちはまだ連帯できる。好評2刷



感染症社会 —アフターコロナの生政治

美馬達哉 著
四六判並製 256頁 本体価格 2,000円

混乱の本質とは何か、そしてこの先にある世界とは。新型コロナウイルスは何度も繰り返されてきたパンデミックに過ぎないのか？ 医師であり注目の医療社会学者でもある著者が、COVID-19に関する医学的知見と発生以来の経緯、そして社会学的分析をふまえ、事態を総合的に捉える迫真の論考。



ポストトゥルース

リー・マッキンタイア著 大橋完太郎監訳
居村匠/大崎智史/西橋卓也訳
四六判並製 270頁 本体価格 2,400円

フェイクニュース、オルタナティブファクト…、力によって事実が歪められる時代はいつから始まったのか。政治や社会への広範なリサーチと、人間の認知メカニズム、メディアの変容、ポストモダン思想など様々な角度からの考察で時代の核心に迫る。世界六カ国翻訳のベストセラー、待望の翻訳。



礼とは何か —日本の文化と歴史の鍵

桃崎有一郎著
四六判並製 320頁 本体価格 2,700円

教室での礼、貰い物への返礼など、日本社会に溢れる「礼」。それは古代中国に生まれた、世界を律するための概念であり、今日まで広く深く日本の文化と歴史を規定している。しかし、「礼」とは一体何か、歴史学的に解明し本質を捉える議論はこれまでにされてこなかった。気鋭の日本中世史研究者が中国古代思想に分け入り、「礼」の根源に迫る画期的力作。



人文書院 〒612-8447 京都市伏見区竹田西内畑町9 Twitter @jimbunshoin (税抜)
TEL075-603-1344 FAX075-603-1814 <http://www.jimbunshoin.co.jp/>



表紙写真：コロナ禍の大学生協書店
撮影：大橋裕和

大学出版 125号(2021年冬)
2021年1月1日発行
頒価 100円(〒共)

発行所：一般社団法人 大学出版部協会
ISSN 0913-3305
振替 00170-8-389131

〒102-0073
東京都千代田区九段北1丁目14番13号
メゾン萬六403号室
TEL 03-3511-2091 FAX 03-3511-2092
E-mail: mail@ajup-net.com
URL: <http://www.ajup-net.com/>

表紙デザイン：阿部卓也

※季刊「大学出版」は、大学出版部協会の
公式HPでも、PDF版を全文無料で
ダウンロードいただけます

一般社団法人 大学出版部協会 加盟出版部一覽

■ 北海道大学出版会

〒060-0809 札幌市北区北9条西8丁目
北海道大学構内
TEL 011-747-2308 FAX 011-736-8605

■ 弘前大学出版会

〒036-8560 弘前市文京町1番地
弘前大学附属図書館内
TEL 0172-39-3168 FAX 0172-39-3171

■ 東北大学出版会

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
東北大学構内
TEL 022-214-2777 FAX 022-214-2778

■ 流通経済大学出版会

〒301-8555 龍ヶ崎市府畑120
TEL 0297-60-1167 FAX 0297-60-1165

■ 聖徳大学出版会

〒271-8555 松戸市岩瀬550
TEL 047-365-1111 FAX 047-363-1401

■ 慶應義塾大学出版会

〒108-8346 港区三田2-19-30
TEL 03-3451-3168 FAX 03-3451-3124

■ 専修大学出版局

〒101-0051 千代田区神田神保町3-10-3
TEL 03-3263-4230 FAX 03-3263-4288

■ 玉川大学出版部

〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1
TEL 042-739-8935 FAX 042-739-8940

■ 中央大学出版部

〒192-0393 八王子市東中野742-1
TEL 042-674-2351 FAX 042-674-2354

■ 東京大学出版会

〒153-0041 目黒区駒場4-5-29
TEL 03-6407-1069 FAX 03-6407-1991

■ 東京電機大学出版局

〒120-8551 東京都足立区千住旭町5番
TEL 03-5284-5385 FAX 03-5284-5387

■ 法政大学出版局

〒102-0073 千代田区九段北3-2-3
法政大学九段校舎内
TEL 03-5214-5540 FAX 03-5214-5542

■ 武蔵野大学出版会

〒202-8585 西東京市新町1-1-20
武蔵野大学構内
TEL 042-468-3003 FAX 042-468-3004

■ 武蔵野美術大学出版局

〒180-8566 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7
TEL 0422-23-0810 FAX 0422-22-8309

■ 明星大学出版部

〒191-8506 日野市程久保2-1-1
TEL 042-591-9979 FAX 042-593-0192

■ 早稲田大学出版部

〒169-0051 新宿区西早稲田1-9-12
TEL 03-3203-1551 FAX 03-3207-0406

■ 関東学院大学出版会

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1
TEL 045-786-5906 FAX 045-785-9572

■ 名古屋大学出版会

〒464-0814 名古屋市千種区不老町1
名古屋大学構内
TEL 052-781-5027 FAX 052-781-0697

■ 名古屋外国語大学出版会

〒470-0197 日進市岩崎町竹ノ山57
名古屋外国語大学内
TEL 0561-75-2503 FAX 0561-75-1723

■ 三重大学出版会

〒514-8507 津市栗真町屋町1577
三重大学総合研究棟Ⅱ3階
TEL 059-232-1356 FAX 059-253-3095

■ 京都大学学術出版会

〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町69
京都大学吉田南構内
TEL 075-761-6182 FAX 075-761-6190

■ 大阪大学出版会

〒565-0871 吹田市山田丘2-7
大阪大学ウエストフロント
TEL 06-6877-1614 FAX 06-6877-1617

■ 関西大学出版部

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35
TEL 06-6368-0238 FAX 06-6389-5162

■ 関西学院大学出版会

〒662-0891 西宮市上ヶ原一番町1-155
TEL 0798-53-7002 FAX 0798-53-5870

■ 九州大学出版会

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-8-34
九州大学産学官連携イノベーションプラザ
305
TEL 092-833-9150 FAX 092-833-9160

■ 大阪経済法科大学出版部(休会)

〒581-8511 八尾市楽音寺6-10
TEL 072-941-9129 FAX 072-941-9979